

大分工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

令和7年度 自己点検・評価結果

評価日時：令和8年3月18日

会議名称：教務部委員会

開催場所：大分工業高等専門学校

目的：大分工業高等専門学校情報工学科 数理・データ・サイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の令和7年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	理由
プログラムの履修・修得状況	B	本プログラムの修了要件科目である「AI 基礎」および「AI 基礎演習」は必修科目であり、履修率・修得率ともに100%であった。また、修了要件科目である選択科目「データサイエンス」についても、履修率は86%、修得率は94%であり、概ね良好であった。
学修成果	B	アンケートにより授業を振り返り、学習・教育目標の達成度の自己評価を行った。教員は、これらの結果を分析し、学生の授業内容の理解度を把握するとともに、教務部委員会においても本教育プログラムの評価・改善に活用できている。また、データサイエンスと AI 技術の基礎から応用までを体系的に学修できる構成となっており、データの収集・加工・分析を行う能力、それらを活用して実社会の課題発見・解決につなげる能力の育成を図っている。加えて、Python を用いたデータ処理、統計的分析、機械学習・深層学習の理解と実装、生成 AI の活用、実データを用いた演習等を通じて、理論と実践を結び付けた学修成果が得られている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	A	授業アンケートにおける学生による授業の5段階評価では、本プログラムの主要科目4科目の平均は、令和6年度の4.3ポイントから令和7年度は4.5ポイントに上昇した。これらのアンケート結果を踏まえ、授業内容、教材、授業方法等の改善につなげることで、次年度以降の更なる教育改善を図る。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	A	授業アンケートでは、本プログラムの構成科目において、「非常に良い」及び「良い」の評価がいずれも9割を超えており、「不満」及び「非常に不満」の評価はみられなかった。また、選択科目である「データサイエンス」および「データサイエンス演習」の履修率もそれぞれ86%、90%であり、学生の関心は概ね高い水準にあると判断できる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	B	履修者数および履修率の向上に向けて、履修ガイダンス等による周知、実践的な授業内容の充実、授業に関する満足度調査の結果を踏まえた教材・授業方法・進度の見直しを進めている。令和7年度においては、必修科目は修得状況良好であり、選択科目についても履修率は概ね高い水準を維持していることから、履修者数・履修率向上に向けた取組は計画通り進捗している。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。

大分工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

令和7年度 自己点検・評価結果

評価日時：令和8年3月18日

会議名称：教務部委員会

開催場所：大分工業高等専門学校

目的：大分工業高等専門学校情報工学科 数理・データ・サイエンス・AI 教育プログラム（応用基礎レベル）の令和7年度の自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の視点	自己評価	理由
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	B	本プログラムは令和6年度に開講したものであり、令和7年度時点では修了生がまだ出ていない。今後、修了生が生じた段階で、進路状況や企業等からの評価を分析し、教育プログラムの改善に活用していく。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	B	本プログラムでは、実社会におけるデータサイエンス・AI の活用を意識し、地域企業から提供された実データや教員が作成した教育用データを用いた演習を実施している。また、企業面談を通して把握した企業ニーズや実社会で求められる知識・技能を踏まえながら、教育内容や手法の改善を図っている。 また、本校では学生が就職した会社を対象とした企業アンケートと、卒業生・修了生アンケートを隔年で交互に実施しており、いただいた意見を収集し、教務部委員会においてプログラムの改善に活用している。
数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	B	本プログラムでは、最新技術や研究事例、産業応用例を取り入れるとともに、生成 AI の体験的学習や地元企業から提供いただいた実データを用いた演習を通じて、数理・データサイエンス・AI を学ぶ楽しさと、それらを社会課題の解決に活用する意義を理解できるよう工夫している。加えて、スコア競争型の演習等を通じて、学生が主体的に試行錯誤しながら学ぶ機会を設けている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	B	学生アンケートの結果を踏まえ、教材、授業方法、進度等の見直しを行っている。また、学生の理解度に配慮した段階的な教材構成や実践的な演習を取り入れることで、内容・水準を維持しつつ、より分かりやすい授業となるよう改善を進めている。

A：自己点検・評価の視点を上回る成果を達成できた。

B：自己点検・評価の視点の通り、成果を達成できた。

C：自己点検・評価の視点の通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

D：自己点検・評価の視点の水準まで成果を達成できなかった。さらに、達成に向けた対応策が立案されていない。